

○ 老人クラブの歩み

老人クラブ前史

老人クラブの起源は、高齢者を祝う敬う平安時代の「尚齒会」、さらには仏教伝来とともに日本に伝わったとされる相互扶助組織「講」にまでさかのぼることができます。その後、

- ・明治26年 博多高砂会（福岡県福岡市）
- ・明治40年 楽寿老人会（京都府亀岡市）
- ・大正14年 上田地区老人会（熊本県小国町）

が設立され、現在の老人クラブの基礎が築かれました。

戦後の老人クラブの始まり

戦後の荒廃した社会にあって、“老後の幸せは自らの手で開こう”とする先覚者たちがいました。彼らは、老後に不安を感じている老友や、老後の問題に関心を寄せる人々に呼びかけ、次々に老人クラブを結成していきました。

初期の老人クラブは、孤独に陥りがちな高齢者たちの親睦の場としてスタートしましたが、先覚者たちの共通の目的は、「高齢者が集い、生きがいを高めること」「行政や社会に働きかけ、老人福祉を推進する世論を高めること」にありました。老人クラブの主張は、しだいに社会に受け入れられ、地域に根を下ろしていきました。

老人クラブ関係年表

年	老人クラブの歩み		老人福祉・社会の主な動き
	長野県	全 国	
昭和21年		・千葉県八日市場市に「米倉老人クラブ」結成。この頃より全国で老人クラブづくりが始まる。	・「日本国憲法」公布（翌年施行）
22年			・兵庫県野間谷村（現・八千代町）で「としよりの日」を定め、敬老行事を実施
26年			・全国社会福祉協議会（全社協）第1回「としよりの日」運動を全国的に実施
27年		・全国各地の社協において、老人クラブづくりが進められる。	
29年		・全社協が初の「老人クラブ数調査」を実施。全国のクラブ数は112であった。	・「(新)厚生年金保険法」公布・施行
30年	・伊那市、岡谷市の各老人クラブ連合会（老連）設立		
32年	・臼田町老連設立	・大阪市と徳島県に老連設立（以降、各地で老連の設立）	
33年	・松川町、諏訪市、辰野町、山形村の各老連設立 ・県下の老人クラブ数は49		・「(新)国民健康保険法」公布（翌年施行。国民皆保険体制が確立）

年	老人クラブの歩み		老人福祉・社会の主な動き
	長野県	全 国	
昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> 茅野市、真田町、美麻村、箕輪町、北相木村、三郷村、喬木村の各老連設立 		「国民年金法」公布
35年	<ul style="list-style-type: none"> 下伊那郡、木曾福島町、阿智村、浪合村、小谷村、小諸市、高森町、上田市、大町市、松川村、坂北村、飯山市、須坂市、根羽村、南佐久郡、宮田村、鬼無里村、開田村、泰阜村の各老連設立 県社協から市町村長等に「老人クラブの結成及び育成について」通知 長野県老人クラブ連合会発会式挙行（この大会を第1回とし、以後、「長野県老人クラブ大会」として、毎年開催） 		
36年	<ul style="list-style-type: none"> 佐久市、木曾郡、武石村、飯島町、鼎町、清内路村、天竜村、大鹿村、南信濃村、日義村、梓川村、小布施町、上山田町、豊田村、南相木村、立科町、北安曇郡、上高井郡、三水村、高山村、信州新町、長野市、小県郡、中野市、大岡村、青木村の各老連設立 老人クラブの歌詞選考会議の開催、「老人クラブの歌」を第2回県老人クラブ大会で発表 		
37年	<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブの歌」「老人体操」のレコード完成、頒布 北佐久郡、八千穂村、丸子町、原村、野沢温泉村、小川村、明科町、坂城町、更埴市、信濃町、中条村、富士見町、軽井沢町、山ノ内町、下條村、戸倉町、更水、豊丘村の各老連設立 老人クラブ指導者研修会が始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「全国老人クラブ連合会（全老連）結成大会」開催（11,000クラブ、80万人）〈昭和42年財団法人認可〉 	
38年	<ul style="list-style-type: none"> 木島平村、飯田市、塩尻市、望月町、北御牧村、東部町、下諏訪町、中川村、阿南町、売木村、木祖村、王滝村、穂高町、戸隠村、波田町、本城村、坂井村、生坂村、和田村、御代田町、浅科村、平谷村、豊科町、安曇村、南安曇郡、栄村、堀金村、下高井郡、駒ヶ根市の各老連設立 	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブに対する助成開始（1クラブ1,500円。昭和50年から連合会にも助成。昭和57年からは運営費補助から事業費補助へ。） 	<ul style="list-style-type: none"> 「老人福祉法」公布、施行
39年	<ul style="list-style-type: none"> 四賀村、麻績村、諏訪郡、東筑摩郡、上村、朝日村、高遠町、豊野町、下水内郡、南牧村の各老連設立 		<ul style="list-style-type: none"> 厚生省は、社会局に老人福祉課を設置

年	老人クラブの歩み		老人福祉・社会の主な動き
	長野県	全 国	
昭和40年	<ul style="list-style-type: none"> 川上村、長谷村、白馬村の各老連設立 		
41年	<ul style="list-style-type: none"> 松本市、上伊那郡、上郷町、南木曾町の各老連設立 老人クラブ婦人指導者研修会が始まる。 		<ul style="list-style-type: none"> 「老人の日」が「敬老の日」として国民の祝日となる。
42年	<ul style="list-style-type: none"> 埴科郡、長門町、上松町の各老連設立 	<ul style="list-style-type: none"> 全国7ブロックにおける「郡市区町村老人クラブリーダー研修会」開始 	
43年	<ul style="list-style-type: none"> 池田町、牟礼村、八坂村の各老連設立 老人クラブ功労者等に対する県老連会長表彰制度創設 	<ul style="list-style-type: none"> 機関紙「全老連」創刊 関東甲信越静岡ブロック老人クラブ連絡協議会発足 	<ul style="list-style-type: none"> 「信濃の国」を県歌に制定
44年	<ul style="list-style-type: none"> 佐久町、三岳村、大桑村の各老連設立 		
45年	<ul style="list-style-type: none"> 小海町、檜川村の各老連設立 		<ul style="list-style-type: none"> 第1回豊かな老後のための県民会議開催（昭和57年まで。以降昭和63年までは「豊かな老後のための県民の集い」「高齢化社会をともに考える県民のつどい」の開催）
46年	<ul style="list-style-type: none"> 南箕輪村老連設立 郡市老連幹部研修会が始まる 		<ul style="list-style-type: none"> 県単「老人医療給付事業補助金交付要綱」制定
47年	<ul style="list-style-type: none"> 山口村、奈川村の各老連設立 高齢者作品展を県と共催で開催（以降、毎年開催） 	<ul style="list-style-type: none"> 全老連の各都道府県老連における「老人クラブリーダー地方研修事業」開始 「全老連設立10周年記念全国老人クラブ大会」開催（この大会を第1回とし、以後、毎年開催） 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄施政権返還、沖縄県発足 厚生省は、社会局に老人保健課を設置
48年	<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブ活動事例集（第1集）」を刊行（昭和60年の第12集まで。） 県老連の財団法人化の基金積み立て開始（会員一人10円目標） 	<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブ運営指針」策定（全老連） 	<ul style="list-style-type: none"> 「老人医療無料化制度」開始 石油危機（オイルショック） この年、「福祉元年」といわれる。
49年		<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ活動推進員制度発足（国・県補助） 	
51年	<ul style="list-style-type: none"> 長野県老人クラブ連合会が、財団法人設立許可 		
52年	<ul style="list-style-type: none"> 機関紙「ながの県老連だより」創刊 		
53年			<ul style="list-style-type: none"> 長野県老人大学発足（1年制、昭和60年から2年制）
55年	<ul style="list-style-type: none"> ゲートボール競技指導者講習会開催 地区ゲートボール競技大会を県下4か所で開催（昭和58年まで） 	<ul style="list-style-type: none"> 「市町村老人クラブ連合会運営指針」策定（全老連） 全国運動「病にかからぬ運動」開始（昭和59年に「健康をすすめる運動」に改称）（全老連） 	

年	老人クラブの歩み		老人福祉・社会の主な動き
	長野県	全 国	
昭和57年		<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブのシンボルマーク・会員章制定（全老連） 昭和天皇をお迎えして「全老連創立20周年記念全国老人クラブ大会」開催 	<ul style="list-style-type: none"> 「老人保健法」公布（翌年施行老人医療一部有料化）
58年	<ul style="list-style-type: none"> 「百歳賀寿祝い」が始まる。 		
59年			<ul style="list-style-type: none"> 日本人の平均寿命、男女ともに世界一となる。（男74.2歳、女79.8歳）
61年	<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブ社会参加モデル推進事業」の実施〈国県補助〉（昭和63年まで。） 「(財)長野県老人クラブ連合会25年史」刊行 	<ul style="list-style-type: none"> 「健康をすすめる運動」に「友愛活動」「『社会奉仕の日』一斉奉仕活動」を加え、「健康・友愛・奉仕」の全国3大運動開始（全老連） 	<ul style="list-style-type: none"> 「長寿社会対策大綱」閣議決定
62年	<ul style="list-style-type: none"> 「長野県老人クラブ連合会老人憲章」制定 	<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブ保険」創設（全老連） 	
63年	<ul style="list-style-type: none"> 郡市婦人部長会議の開催（平成12年から女性委員会に改組） 		<ul style="list-style-type: none"> 厚生省は大臣官房に老人保健福祉部を設置 第1回「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」開催
64年 平成元年	<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブ活動モデル推進事業」の実施〈本会単独〉（平成18年まで） 関東ブロック老人クラブ指導者研修会が長野県で開催 		<ul style="list-style-type: none"> 昭和天皇崩御 消費税導入 (財)長野県長寿社会開発センター創立
2年		<ul style="list-style-type: none"> 提言「21世紀に向けての新たな老人クラブづくり」発表（全老連） 	<ul style="list-style-type: none"> 厚生省は「高齢者保健福祉推進10か年戦略」（ゴールドプラン）を策定 バブル崩壊
3年		<ul style="list-style-type: none"> 「ねたきりゼロ運動」を全国的に展開（全老連） 第4回全国健康福祉祭において老人クラブのパビリオン「地域文化伝承館」開設（以後、毎年開設） 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者相互支援推進事業—モデル老連指定—」の実施〈国県補助〉（平成19年まで。但し補助は18年まで。） 	<ul style="list-style-type: none"> 全国運動「在宅福祉を支える友愛活動」開始 天皇皇后両陛下をお迎えして「全老連創立30周年記念全国老人クラブ大会」開催 	<ul style="list-style-type: none"> 厚生省は、大臣官房老人保健福祉部を老人保健福祉局に改組
5年	<ul style="list-style-type: none"> 「県老連基金」造成について郡市町村老連会長あて文書で依頼（平成5・6年度で造成、目標額1億円） 	<ul style="list-style-type: none"> 全老連「女性委員会」発足 	
7年		<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブ21世紀プラン」策定（全老連） 	<ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災発生 厚生省が「新ゴールドプラン」を策定 「高齢社会対策基本法」公布・施行
8年	<ul style="list-style-type: none"> 「(財)長野県老人クラブ連合会史」(その2)刊行 	<ul style="list-style-type: none"> 「老人クラブ運営指針」改正（全老連） 	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢社会対策大綱」閣議決定

年	老人クラブの歩み		老人福祉・社会の主な動き
	長野県	全 国	
平成9年			<ul style="list-style-type: none"> 「介護保険法」公布（平成12年施行）
10年	<ul style="list-style-type: none"> 長野冬季オリンピック及びパラリンピックの選手等へ手作りの「長野てまり」約6,300個贈呈 		<ul style="list-style-type: none"> 長野冬季オリンピック及びパラリンピックの開催 老年人口2,000万人突破
11年	<ul style="list-style-type: none"> 第28回全国老人クラブ大会が長野県で開催 		この年、「国際高齢者年」
12年	<ul style="list-style-type: none"> 「県老連女性委員会」発足 	<ul style="list-style-type: none"> 「単位クラブ21」策定（全老連） 	<ul style="list-style-type: none"> 「介護保険制度」開始 厚生省が「ゴールドプラン21」を策定 厚生省が「健康日本21（21世紀における国民健康づくり運動）」を策定
13年			<ul style="list-style-type: none"> 中央省庁再編。厚生労働省発足
14年	<ul style="list-style-type: none"> 関東ブロック老人クラブリーダー研修会が長野県で開催 	<ul style="list-style-type: none"> 全国運動「老人の日・老人週間」の取り組み開始 天皇皇后両陛下をお迎えして「全老連創立40周年記念全国老人クラブ大会」開催 	<ul style="list-style-type: none"> 「健康増進法」公布（翌年施行） 「老人の日・老人週間」創設（9月15日と同日からの1週間）
15年	<ul style="list-style-type: none"> 「県老連基金」一部取り崩し 市町村合併に伴い千曲市老連発足 	「老人クラブ21世紀プラン」改訂（全老連）	<ul style="list-style-type: none"> 「敬老の日」が9月15日から9月の第3月曜日となる。
16年	<ul style="list-style-type: none"> 市町村合併に伴い東御市老連発足 		
17年	<ul style="list-style-type: none"> 市町村合併に伴い新たな長野市、松本市、中野市、塩尻市、佐久市、安曇野市の各老連発足 		
18年	<ul style="list-style-type: none"> 市町村合併に伴い新たな阿智村、長和町、筑北村、木曾町、飯田市、伊那市、大町市、佐久穂町、飯綱町の各老連発足 会員加入促進優良老人クラブ等の会長表彰制度創設 健康づくり推進員派遣事業創設 「高齢者の体力測定」用具貸出し事業創設 		
19年	<ul style="list-style-type: none"> 市町村合併に伴い新たな上田市高連発足 「高齢者の体力測定」啓発・普及モデル事業創設 		<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者の医療の確保に関する法律」公布
20年			<ul style="list-style-type: none"> 「後期高齢者医療制度」の開始
21年	<ul style="list-style-type: none"> 町村合併に伴い新たな阿智村高連発足 		
22年	<ul style="list-style-type: none"> 市町村合併に伴い新たな長野市老連・松本市高連発足 「健康ウォーキング」推進事業開始（モデル地区 5） 	老人クラブ活性化3か年計画策定（22～24年度）	
24年		<ul style="list-style-type: none"> 天皇皇后両陛下をお迎えして「全老連創立50周年記念全国老人クラブ大会」開催 	
25年	<ul style="list-style-type: none"> 財団法人から一般財団法人に移行 		
26年	<ul style="list-style-type: none"> 県下2万人会員増強運動5か年計画（26～30年度） 	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブ「100万人会員増強運動」5か年計画（26～30年度） 	